
地縛霊の故意無き殺人

kotorinakisekai

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地縛霊の故意無き殺人

【Nコード】

N8845P

【作者名】

k o t o r i n a k i s e k a i

【あらすじ】

・何もすることが無くて暇だった。何処にも行くことができなかった暇だった。だからその地縛霊は人間観察をよくしていた。そんなある夜のこと。地縛霊のいる道を酔っ払いが通りかかった……。

【この作品は他サイトと二重投稿しています】

特に何も無い道に少女が一人いた。今は夜中と言っているのは危ない。こんな時間に少女が外に一人でいるのは危ない。

だが、この少女は普通の少女ではない。

姿はあってもその体に触れることはできない。そもそも、その姿すら見ることもできる者すら限られている。その少女は幽霊なのだ。

> i 2 5 9 7 4 — 3 3 7 0 <

少女は死んだばかりだった。長いことここにぼんやりと座っているうちに、自分は死んだのだと何となく理解した。ここに座り込む直前の光景を思い出そうとすると頭が痛くなる。後ろから大きなクラクションを鳴らされていたのは覚えているのだが……。とにかく自分は死んでいるのだ。

少女は自分が死んだことを理解すると、家に帰りたくなった。しかしいざ立ち上がったって家に帰ろうとすると、数歩歩いただけで身体が動かなくなってしまった。ひどく疲れやすい体なのかと思って休んでみても前には進めなかった。

しかし、さつきまで自分が居た場所に帰ろうとすると簡単に戻ることができた。少女はここから動くことができないのだということも理解した。

不思議と涙は出なかった。それに、暗闇の中に一人きりでもそれほど怖いとは思わなかった。闇屋幽霊を信じるのは、自分が生きていて、それらと接触して死んでしまうことを無意識に考えて恐怖を覚えるのだ。死んでしまった少女が今更暗闇を恐れる訳がない。

『幽霊が怖くなくなったのは自分も幽霊になったからか……』

少女がそんなことを考えながら夜空を見上げていた。昼間なら人がそれなりに通っていて退屈しないのだが、夜中になるとそうもい

かない。カエルの合唱を聞きながら夜空を見上げているだけなので暇でしょうがない。

すると、そんな少女のところに男の人が一人やってきた。その男はひどく酔っ払っていて、ふらふらしながらこちらに歩いてくる。

良い暇つぶしができたと思い、少女はその男のことを観察し始めた。男は陽気に鼻歌を歌いながらこちらに向かってくる。相手に聞こえはしないだろうが、それに合わせて少女も歌う。

男が女のこの前を通り過ぎようとすると、男は急に足をもつれさせて少女に向かって倒れ込んできた。少女は一瞬驚いたが、成人男性の体の重さのしかかってくることはなかった。男の体は少女の体をすり抜けてしまったのだ。思えば少女は何も触れることはできなかったのだ。人の体を通り抜けるのは気味が悪いから、一度もしたことはなかったのだが……。

『危ないなー』

少女は誰にも聞こえない声でそう呟いて男の人を見下ろした。すると様子がおかしい。身体ががくがく震えているし、息が荒い。ついにはうめき声をあげて転がりまわり始めた。

身体に触れられない少女に何ができる訳もない。ただオロオロしながら男の姿を見つめるだけ……。その男はそのまま死んでしまい翌朝ここを通った人に見つけられた。

『嫌なもの見ちゃった』

少女はそう思いながらその日過ごしていた。

人が死ぬ様子というのは見えていて気持ちが悪い。あんなに苦しまれたらなおさらだ。あんな風になったのは酒を飲んでいただけに違いない。お酒は悪いものだから大きくなっても飲まないようにしよう。……もう大きくなれないんだった。

少女はそんな風に考えて笑った。笑ったことによって少し気が楽

になった。

少女は近くにまた男の人が居るのを見つけた。その男の人は酒を飲んではいない。しかし、ただの通行人という訳でもなかった。棒を持って猫をいじめているのである。

その男は、猫のをひもで木に縛り付けていた。猫の方に見覚えがある。このあたりでは有名ないたずら猫だ。男の方も猫の悪行を並べながら棒でつついている。

いくら猫が悪いとは言っても見ていて気持ちのいい光景ではない。男が立っているのは少女の手が届く範囲だった。触れはしないが腹が立つのだから仕方がない。気休めのつもりで女の子は男を殴った。当然それは空振りする。

しかし、空ぶった後男の様子がおかしくなり始めた。突然膝をついて苦しみ始めたのだ。それは昨日の男の様子によく似ていた。

『まさか……』

少女は嫌な予感がした。もしかして、自分が触れると人を殺してしまうのではないか？ しかし、今まで他の動物を触れようとしてもその動物が死んだことは無かった。だが、現実には男は苦しがつている。ついに男は転がりまわって泡を吹き始めた。そしてそのまま、動かなくなってしまった。

その男の死体も通行人が見つけた。少女はそれを見ながらショックを受けていた。

『私が殺してしまった……。しかも二人も？　じゃあ私は犯罪者？　殺人犯なの？』

もう、歌っても馬鹿なことを考えても気が休まることは無かった。罪の意識が少女を苛む。

その日の夜。少女は始めて泣いた。自分が死んだのだと分かった時すらなかったのに、人を殺してしまったのだと分かったと涙が止まらなかった。大きな罪を犯したことが無いことだけが自慢だったと言っのに……。

そんな少女のいるところにまた別の男がやってきた。……酔っ払っている。

少女はその男から逃げ出したかった。しかし体は動いてくれない。何事もなく通り過ぎることを祈る。そんな少女の祈りを知らずに、男は少女の前を通り過ぎようとする。

『どうやらこのまま通り過ぎてくれそうだ……』

少女がそう呟いた瞬間、男が大きくふらついて少女に向かって倒れ込む。少女はそれを避けようとする。だが……身体が動いてくれなかった。

男は前の二人と同じように苦しみ出す。少女はそれを見て悲鳴を上げる。しかし、結局何もできずにその男は死んでしまった。

次の日、町の人たちが少女のいる道に集まった。除霊をするのだと言う。

この場所には車にひかれて死んだ少女の悪霊が取り付いている。その少女が恨みを晴らすために、片っぱしから通行人を殺しているのだと言うのだ。

少女が否定する言葉を叫んでも誰にも聞こえない。

ついに霊能力者がやってきて除霊が始まった。

「この道に取りつく悪霊よ。自分の悲しみのために次々に人の命を奪った罪を、ここで償ってもらおう」

霊能力者は一方的にそう告げるとお経を唱え始めた。生きている間はただ退屈なだけだったお経が、今の少女にはガラスを爪で引っ掻くような音に聞こえた。その上体中に激痛が走る。

『痛い！ 痛い！ 痛い！ 違うの！ 私は殺したくて殺したんじゃないの！ 身体が触れただけで殺してしまうなんて誰が思うの！ 最後の人に至っては避けようとした！ でも身体が動いてくれなかったのよ！』

少女の悲痛な叫び声は誰にも届かない……。

「そこまでです」

霊能力者の後ろからそう叫ぶ声が聞こえた。

そう叫んだのは寺の坊主だった。

「悪霊はいなくなりました。これ以上続けても意味がありません」

霊能力者はまだ例は完全に被われていないと主張したが、坊主が除霊料は払うというと言霊能力者はあっさりと引き下がった。

町の人たちは町の人たちで、坊主がそういうならそうなのだろうと、納得して解散して行った。しかし、坊主はその場所に残って、少女のいる場所を見つめる。

「苦しかったですね」

まだ身体が十分に動かない少女は顔だけを坊主に向ける。

『わ……たしが……見えるの？』

「見えますよ。途中からあなたが悪霊でないのは分かりました。町の人から責める言葉をかけられるのはさぞ辛かったです」

坊主がそういつて少女の頭に手を伸ばす。とっさに少女は避けようとしますが間に合わない。

（お坊さんも死んでしまう）

だがそうはならなかった。坊主の手は少女の頭に触れて、優しく頭を撫でてくれた。

「あなたを癒すためのお経を唱えさせてください。あなたが天国へいけるように」

『……ありがとうございます』

少女の霊は最後に罪を坊主に許してもらって、成仏した。

（後書き）

ジャンルが分からなかったたのでその他にしました。間違っていたらすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8845p/>

地縛霊の故意無き殺人

2011年8月3日03時23分発行